

研究テーマ

「なかまとかかわりながら、よりよく生きようとする東っ子の育成」
～伝え合い 人間関係を深め 自分たちでつくる生活を目指して～

八頭町立郡家東小学校

アドバイザー：國學院大學 人間開発部 杉田 洋教授

1 はじめに

これからの社会では、主体的・協働的に何かを始める動機を持ったり課題を解決したりすることが必要となる。持っている知識や経験に加え、自分が学んだことや話合いの中から生み出されたことなどを関連付けながら、よりよい解決方法を考えていくことが求められている。友達と目指すところを共有し合い、力を合わせて話合いや活動をすることで、よりよい考えが生み出され、共に学ぶ素晴らしさにも気づくことができる。また、振り返りまでのサイクルを連続することで、自分自身の成長も客観視でき、充実感を味わうことで自尊感情の高まりにもつながっていく。

このような社会に求められる姿を鑑みるにあたり、本校の児童は、まだ、自尊感情が低く自分に自信を持ってない様子が見られる。根拠を持って自分の考えを持つ力はあるが、話合いの中で問題意識を持って自分の考えをより深めたり、納得しながら合意形成したりする段階には至っていない。主体的に取り組む経験も浅く、自分たちで考える前に大人を頼る様子がまだ見受けられる。友達と思いを一つにして活動することの素晴らしさや、より良くなるための自己決定を実践し合うことで、人間関係の更なる深まりも期待できる。自分たちの生活をよりよくするために、友達と知恵と力をしっかりと合わせ、思いのある活動を通して、充実感や満足感を味わわせていく。そして、「自信あふれる子ども」を育てていきたいと、研究テーマを設定し、國學院大學人間開発部の杉田洋教授にアドバイザーとしてご指導いただき、研究を深めることができた。

2 実施期日 【第 1 回目】 平成 28 年 5 月 30 日（月）

- ・ 6 年 2 組理科研究授業参観①
- ・ 今年度の研究の方向性（指導助言）
- ・ 6 年 1 組学級活動研究授業参観②（参観）
- ・ 年間指導計画について（指導助言）
- ・ 授業研究会・講義（指導助言・講義）

【第 2 回目】 平成 28 年 10 月 3 日（月）

- ・ 1 年 1 組学級活動（1）授業参観①（参観）
- ・ 5 月からの取組経過と今後の方針（指導助言）
- ・ 6 年 2 組学級活動（1）授業参観②（参観）
- ・ 授業研究会の持ち方（指導助言）
- ・ 授業研究会・講義（指導助言・講義）

3 杉田先生に指導助言をいただいた事項

<ご指摘いただいたこと（研究全般）>

1	どの行事で全校体制として自己決定をさせていくのか。
2	ポートフォリオ化については、どうするのか。
3	学級の伸びが分かる可視化の工夫はどうするのか。（集団目標）
4	研究構想図の整理の必要性。
5	「〇年生になって」の整理すること。
6	個人目標の近くに将来の夢（道徳）を掲示してはどうか。
7	目標の評価は3段階から4段階にしてはどうか。（3つでは3にしがち）
8	教科も特活もアクティブラーニングの授業にしてはどうか。

<ご指導いただいたこと 学級活動（2）>

1	アクティブラーニングの授業
2	VTRを見るときは、見せる視点を決めておく。自分たちの映像より、一般化されたものがよい。
3	ゴール 自己決定するカードを始めに示しておく。
4	学習段階を示しながら授業を進める。例「次は、探るに入るよ。」
5	時間も示して進める。
6	根拠を持たせて、思考をさせること。
7	授業を「何のためにやるのか」「何の役に立つのか」明確に持たせる。
8	「つかむ」は、できるだけ焦点化すること。
9	「さぐる」で行うのは、 「なぜそうなるか（原因）」「どうしてそれができないのか（理由）」の二つ
10	「見つける」は、問題は様々にあるので、 <u>わたしたちの問題</u> として解決方法をみんなで見つけていく。→「一人では解決できない。いろいろな意見を出してね。」 わたしたち問題の中から、「 <u>わたしの問題</u> 」をとらえていく。 そして、「わたしの問題」に対して、自分の解決方法を見つけていくことになる。

キーワード 特活でも教科等でも汎用的な力を

◎教科の汎用化

- ①学習の見通しを持たせる。（学習の流れのカード活用）
- ②協力して活動をする。（本時では実験、考察）（形態 班）
- ③思考の整理をする。（考えるアイテムを意識した指導）
- ④学習課題からまとめの一連の流れ→問題の解決

◎学習の見通しを持つとは、
「教員がプランを示し、子どもが主体的、協働的に学ぶこと

○学級活動（2）の授業研究会から

～成果～

- ・新しい思考ツールを使う。
- ・出てきた意見の整理
- ・効果的な資料提示
- ・時間の見通しを児童に持たせる。
- ・目標にしたい具体的な友達の名前があがる。
- ・安心できる学級
- ・学級目標と関連づけて考える。
- ・自分の本音を話せる。
- ・出された意見をもとに、グループで会話してもっと考えを深める。
- ・思考ツール「ブレインライティング」の活用

課題

・自分自身の課題を自覚するのは、授業のどの段階か。自覚させる時間、場を作った方がいいのか。

・学年に応じた自己決定の姿は？
自己決定をするゴール（6年生）の具体的な姿は？

・できない理由をさぐるとき…
→最高学年としての立場とのかかわり
→あいさつの意義とのかかわり
<考えるための視点の明確化、整理>

○学級活動（1）の授業研究会から

○議論は、主張があつてこそ行われる。

出し合う・・・拡散

比べ合う・まとめる・・・収束

どう深い学びにするか？

・違いや多様性を出す。もめることで、話し合いが盛り上がる。

アクティブラーニングとしての言語活動の充実

- ・見通しと振り返りを能動的自覚的に
- ・タスクとプロセス（手順・時間・方法）の可視化を活用した見通しと振り返り
- ・目的にあった多様な話し合いの場やグループの工夫
- ・目的にあった思考ツールの活用

○言うこと

まずは、「物を言うこと」=社会参画「言うことは大事だ。」「言った方がいいことがある。」と思わせる。

物を言うことは、しつけではない。物を言うことの大切さを価値付けする。

○聞くこと

得をすることがあるから、聞く。反対の意見を聞くことで、いいことがあるようにする。

・どうしても言いたいことをつくる。

やりたい。言いたい。

→ 本気にさせること

4 おわりに

今年度、杉田洋先生をお迎えし、多くのご示唆をいただきながら本校の研究を進めることができた。昨年度からの取組により教師の意識が変わり児童が変わり、児童の主体的な活動が増えてきた。本校でできることを取り組んできたが、取り組みが広がり過ぎている実態があり、本校で大事にすることを精査していくことの必要性を感じた。今後も研究主題のもと、めざす子ども像に向かいながら、職員一丸となって研究を進めていきたい。